



2016年10月25日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03-5475-6309
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120-598106
アウディ コミュニケーションセンター

時代をリードするプレミアム ハイパフォーマンスカー

新型 Audi S4 / S4 Avant を発売

- ・ 260kW (354PS)、500Nm の新開発 V6 ターボエンジンを搭載
- ・ 新開発の燃焼方式と過給システムにより高性能と高効率を両立
- ・ 安全のためのアシスタンスシステム、「アウディプレセンス」の機能をさらに拡張

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は、Audi S4 セダン及び S4 Avant をフルモデルチェンジし、本日 10 月 25 日より全国の正規ディーラー（122 店舗、現時点）で受注を開始します。納車は、12 月下旬以降の予定です。

Audi S4 は、プレミアムミッドサイズカーの国際的人気モデルシリーズ、Audi A4 の高性能スポーツバージョンです。今回発売する新型は新開発の 260kW (354PS) のハイパワーエンジンを搭載。8 速ティプトロニック、quattro（クワトロ）フルタイム四輪駆動システムを採用して、0-100km/h 加速 4.7 秒*（セダンの値。Avant は 4.9 秒*）という卓越した運動性能を実現しています。

*欧州仕様車測定値

新型 Audi S4 / S4 Avant が搭載する 3.0 TFSI エンジンは、「B サイクル」と呼ばれるアウディ独自の燃焼方式を採用しており、従来型に対しパワーとドライバビリティを大幅に向上させる一方で（パワーは 15kW/21PS、トルクは 60Nm アップ）、燃料消費も低く抑えています（JC08 燃費は従来型の 12.6km/ℓ から 12.7km/ℓ に若干向上）。同時に過給方式も、従来のスーパーチャージャーからターボチャージャーに代え、トルクとレスポンスを改善。シリンダーブロックをアルミ化するなどして、エンジン単体の重量を従来型比 14kg も削減しました。

通常走行時エンジントルクを前 40:後 60 の割合で分配する quattro フルタイム四輪駆動システムには、トルクベクタリング、リヤスポーツディファレンシャル（オプション）といったシステムやメカニズムを加えることで、トラクションと敏捷性をさらに最適化しています。前後ウィッシュボーン式のサスペンションは、S モデル専用のスポーティなセッティングにより、車高を通常の Audi A4 比 20mm 下げています。

Audi A4 シリーズのトップバージョンとして、新型 Audi S4 / S4 Avant には快適性や安全性に関わる最新テクノロジーもふんだんに搭載されており、例えば、アシスタンスシステムについては、新型 Audi A4 や Audi Q7 などに採用されている衝突防止システム、「アウディプレセンス」の機能をさらに拡張し、前方だけでなく、後方や側方もセンサーやカメラを使って常時監視するようにしています（アウディサイドアシスト及びアウディプレセンスリヤを標準装備）。同じく標準搭載されている「トラフィックジャムアシスト付きアダプティブクルーズコントロール」は、渋滞時にアクセル、ブレーキに加えてステアリング操作まで代行する便利なシステムで、将来の自動運転につながる先進テクノロジーとして注目を浴びています。

操作システムやインフォテイメントシステムについては、最新のナビゲーション機能を備えた MMI システムを搭載。バーチャルコックピットやヘッドアップディスプレイといった先進機能も、Audi S4 としては初めて、オプション設定されることになりました。

アウディ独自の先進テクノロジーを駆使することで、ダイナミック性能だけでなく、効率、快適性、アシスタンスシステム、コネクティビティといった分野でもセグメントの基準を書き変えた新型 Audi S4 / S4 Avant は、まさに時代をリードするプレミアム ハイパフォーマンスカーといってもいいでしょう。

今回発売する新型 Audi S4 及び新型 Audi S4 Avant の主要諸元と価格は以下の通りです。

	Audi S4	Audi S4 Avant
ハンドル位置	右/左	
全長	4,745mm	
全幅	1,840mm	
全高	1,410mm	1,435mm
ホイールベース	2,825mm	
車両重量	1,680kg* ¹	1,690kg* ²
JC08 モード燃費	12.7km/ℓ	
総排気量	2,994cc	
エンジン種類	V型6気筒 DOHC インタークーラー付ターボチャージャー	
最高出力	260kW(354PS)/5,400-6,400rpm	
最大トルク	500Nm/1,370-4,500rpm	
駆動方式	クワトロ (フルタイム4WD)	
トランスミッション	8速ティプトロニック	
タイヤ	245/40R18	
車両本体価格 (税込)	8,390,000 円	8,680,000 円

*1 : スポーツディファレンシャル付の場合+20kg、サンルーフ付の場合 +20kg

*2 : スポーツディファレンシャル付の場合+20kg、パノラマサンルーフ付の場合 +30kg

■新型 Audi S4 / S4 Avant の概要

新開発の 3.0 TFSI エンジン

効率とパワーを両立させた新しい燃焼方式「B サイクル」

新型 Audi A4 2.0 TFSI (FWD モデル) に続いて、新型 Audi S4 の 3.0 TFSI (インタークーラー&ターボチャージャー付き 3.0ℓ V6 直噴ガソリンエンジン) にも「B サイクル」と呼ばれるアウディ独自の新しい燃焼方式が採用されることになりました。B サイクルという呼称は、発明者である Dr. ラルフ ブダック (AUDI AG のエンジニア) にちなんだもので、バルブタイミングの設定により吸気工程を短縮して燃費効率を高める、いわゆる「ミラーサイクル」の原理が取り入れられています。従来ミラーサイクルを採用したエンジンは、燃費効率に優れる一方、出力性能においては同排気量の通常のユニットより劣る傾向がありました。しかしながらアウディは、これをターボチャージャーによる過給システムと可変バルブタイミング機構 (アウディ バルブリフト) を組み合わせ、さらに圧縮比(11.2)を高く設定することで、パワーと燃費効率をかつてない高いレベルで融合することに成功しています。実際、新しい 3.0 TFSI エンジンは、従来型より 15kW (21PS)、60Nm 高い 260kW (354PS)、500Nm の最高出力、最大トルクを発揮する一方、燃料消費も JC08 モードで 12.7km/ℓ を達成するなど、効率面での高いポテンシャルを証明しています。

レスポンスに優れた新しい過給システム

3.0 TFSI の過給方式は、従来型の S4 のスーパーチャージャーから、効率のよい新設計のターボチャージャーに変更されています。ツインスクロールの原理を用いたこのターボユニットは、90度Vバンクのあいだに配置されており、そのためこのV6エンジンでは、吸気が外側、排気が内側のレイアウトが採られています。その結果、エンジンからタービンに至る排気経路が短縮され、レスポンスが改善されました。またその排気経路は、左右のバンクで独立してタービンの直前でひとつに交わるようになっており、これによっても左右バンク間の望ましくない排気干渉が回避され、レスポンスの向上につながっています。

アルミ合金製シリンダーブロックとサーマルマネジメント（温度制御）システム

従来の3.0 TFSIから設計を根本的にやり直したことで、エンジン単体の重量が14kgも軽くなりました。アルミ合金製のクランクケースは、複雑な砂型を用いて製造されており、鋳鉄製のシリンダーライナーも、壁の厚さを特別に抑えた設計にしています。またエンジンの冷却は、シリンダーブロックとシリンダーヘッドで別個の回路を採用しており（2系統）、冷間始動直後は冷却液の流れをコントロールして、オイルの温度が短時間のうちに適切なレベルまで達するようにしています。シリンダーヘッドと一体化された排気マニフォールドは、暖気時間の短縮に貢献するとともに、内部に冷却回路を巡らすことで暖気終了後には排ガスの温度を下げ、高負荷運転時の燃料消費を減らす効果を生んでいます。

スポーツ性を高めた足回り

S4専用サスペンションはAudi A4 2.0 TFSIに対し、車高が20mm低くなっています。前後ウィッシュボーン式のサスペンションにより、きびきびとしたハンドリング性能を得つつ、高いレベルの快適性も確保しています。エレクトロメカニカルタイプのパワーステアリングは、オプションで、走行速度に応じてステアリングギアレシオが変る「ダイナミックステアリング」も選択することが可能です。ホイール/タイヤは、18インチのアルミホイールに245/40サイズのタイヤが標準で、ほかにオプションで、Audi sportの19インチホイールなどが設定されています。

8速ティプトロニック

トランスミッションは、従来型のS4の7速ティプトロニックから新開発の8速ティプトロニックに変更されています。素早くスムーズなシフトクオリティが特徴のこのトルコン式オートマチックギヤボックスは、低速ギヤについては、加速を重視してレシオを低めに設定している一方、7速、8速といった高速ギヤには高めのレシオを与えて、クルージング時の燃料消費を抑えています。また、同じく燃料消費を抑制するために、55km/h以上で走行時、ドライバーがアクセルペダルから足を離すと自動的に「フリーホイールモード」に切り替わって駆動抵抗を減らすプログラムが採用されています。

ハンドリング性能にも貢献する quattro システム

新型Audi S4の敏捷な運動性能には、quattroフルタイム四輪駆動システムも大きく貢献しています。通常時は、エンジントルクが後輪にやや多め（60パーセント）に分配されますが、状況に応じて、前後アクスルのうちトラクションが優る方に駆動力をより向けて、推進力を確保する仕組みになっています。高速コーナリング中は、標準装備のトルクベクタリングにより、負荷の少ない内側のホイールに軽くブレーキ力を介入させることで、コントロール性を最適化します。オプションの「スポーツディファレンシャル」を搭載すると、走行状況に応じて、リヤ左右輪間のトルク分配もアクティブに制御されるようになり、さらにダイナミックな走りが楽しめるようになります。

さらに充実した安全のためのアシスタンスシステム

安全のためのアシスタンスシステムは、ベースとなったAudi A4以上に充実しており、「アウディプレセンスベーシック」「アウディプレセンスシティ」「アウディアクティブレーンアシスト」「リヤビューカメラ」「アダプティブクルーズコントロール」「アウディパーキングシステム」のほか、「アウディサイドアシスト」「アウディプレセンスリヤ」などのシステムを標準化しています。そのうち「アウディプレセンスシティ」は、レーダーとカメラにより前方の交通状況を監視して、クルマや歩行者の存在を感知し、緊急時には自動ブレーキを発動するなどして事故の危険を減らすシステムです。追突が避けがたいか、走行状況が著しく不安定になった場合には「アウディプレセンスベーシック」により、前席シートベルトのテンションを上げるなどして衝突の衝撃に備えます。同じく標準装備の「アウディアクティブレーンアシスト」は、ドライバーの車線維持操作をサポートするシステムで、ウインカーを使用しない状況でクルマが車線を逸脱しそうになると、警告を発すると同時に、ステアリングに介入してクルマを元の車線に戻します。「アウディサイドアシスト」と「アウディプレセンスリヤ」は、新型Audi S4が独自に標準装備するシステムで（通常のAudi A4ではオプション）、レーダーとカメラにより後方及び側方の運転状況を監視することで、車線変更時及び後退時の事故の危険を減らしてくれます。同じく標準装備される

「アダプティブクルーズコントロール」には、時速 65km/h 以下の渋滞時に、アクセル、ブレーキだけでなくステアリング操作にも介入してドライバーの負担を軽減する「トラフィックジャムアシスト」の機能が追加されており、将来のより本格的な自動運転につながるテクノロジーとして注目されています。なおエアバッグは、前席前面、前席サイド、及び前後席をカバーするヘッドエアバッグの合計 6 つを搭載。さらに、パークアシスト、サラウンドビューカメラといった機構と組み合わせて、リヤサイドエアバッグをオプション設定しています。

「慎みのあるスポーティネス」をテーマにしたエクステリアとインテリア

アウディの S モデルの伝統に則って、新型 Audi S4 / S4 Avant の外観は、スポーティではあるものの、仰々しさを抑えた表現がなされています。エクステリアで専用デザインとなっているのは、シングルフレームグリル、バンパー、エアインレット、サイドシルのほか、アルミ調の仕上げがなされたサイドミラーハウジング、アルミカラーのリヤディフューザーに収まった合計 4 つのテールパイプなどで、さらに、フェンダーの V6T のロゴ、グリルとトランクリッド（テールゲート）に設置された S4 のロゴ、及び 18 インチもしくはオプションの 19 インチホイールなどが、通常の Audi A4 との識別点になっています。また、通常の Audi A4 ではオプション設定となっている LED ヘッドライト及び LED リヤコンビネーションライトが標準装備されており、さらにオプションでマトリクス LED ヘッドライトも選択することが可能です。LED リヤコンビネーションライトには、ダイナミックターンシグナルの機能が備わっており、マトリクス LED ヘッドライトを選択した場合には、ヘッドライトにも同じ機能が備わることになります。なお、エクステリアカラーは全部で 7 タイプ設定されており、そのうち「ナバーラブルー メタリック」は S モデル専用開発された新色で、「ミサノレッド パールエフェクト」も S モデル専用のカラーです。

「慎ましいスポーティネス」のテーマは、ブラックのヘッドライニング（天井材）、「カーボンアトラス」のデコラティブパネル、ステンレス製のペダル / フットレスト、S モデルのロゴが入ったアルカンタラとレザーのコンビ スポーツシートなどを採用したインテリアにおいても貫かれています。S モデルのロゴは、ステアリングホイール、シフトゲートノフレーム、ドアシルガードにも設置されており、同じく S モデルのロゴが描かれたメーターパネルは、オプションのバーチャルコックピットを選択した場合でも、専用の画面デザインで提供されることになります。

軽量化とエアロダイナミクスの改善

新型 Audi S4 / S4 Avant のボディは、アルミや高強度鋼板など複数の素材を巧みに組み合わせたインテリジェントな構造を採用することで、ねじり剛性を高めつつ、ボディ単体で旧型比 15kg もの重量を削減しています。徹底した軽量化は、前述の V6 ユニットのほか、駆動系 / シャシーコンポーネンツ、シートを含めたインテリア装備にまで及んでおり、結果として車両重量は 1,680kg と、従来型の S4 に対しじつに 100kg もの軽量化が達成されています（セダンでの比較）。

参考：アウディ S モデルについて

アウディにおいて、S の頭文字は、モータースポーツとの関連を表します。アウディ最初の S モデルは、1984 年に発表した Sport quattro S1 で、モータースポーツ（ラリー）専用のモデルでした。生産仕様では 1990 年発表の Audi S2 Coupe が最初で、以来、ハイパワーエンジンと quattro ドライブの組み合わせ、及びスポーツモデルとしては控えめなビジュアルイメージが、Audi S モデルの伝統となりました。ミッドサイズ アウディ（当時の Audi Coupe 及び 80）をベースとした最初の S モデルは、その後 1993 年に Avant が、1993 年にセダンが追加されて、1995 年までに生産が継続されています。今日の S4 の源流にあたるモデルでした。

S4 を名乗った最初のモデルは、1997 年に発表されました。それは、1994 年にヨーロッパで発売された初代 Audi A4 をベースとしたクルマで、195kW（265PS）を発揮する 2.7ℓ V6 ツインターボエンジンを搭載していました。以来、各世代の Audi A4 に S モデルが設定されるようになり、今回の新型は S4 としては 5 世代目のモデルにあたります。エンジンは、2003 年に発表された 2 世代目と 2005 年に発表された 3 世代目の S4 が、自然吸気の 4.0ℓV8（253kW/344PS）で、2008 年発表の 4 世代目がスーパーチャージャー

付き直噴の 3.0ℓV6 (245kW/333PS)。260kW/354PS、500Nm を発揮する新しい 3.0 TFSI は、S4 史上もっともパワフルなエンジンということになります。ちなみに、現在日本で販売されている Audi S モデルは、この S4 / S4 Avant のほか、S1、S3 (Sedan & Sportback)、S5 (Coupe, Cabriolet & Sportback)、S6 (Sedan & Avant)、S7 Sportback、S8 plus、SQ 5、TTS Coupe の合計 9 モデル、14 タイプです。